

ふる～ぶ～ Fleuve

「ふる～ぶ」はフランス語で海にそそぐ大河のことです
ひと、まち、自然、歴史、風景等の吉野川をとりまく様々な表情をみなさんにお伝えします

VOL. 79

2006/9



1 page **〔特集〕**
吉野川アラカルト

東南海・南海地震に 備えよう。

突然やってくる大規模な地震や津波。
東南海・南海地震を想定した防災訓練や
住民と大学が取り組む自主防災組織を紹介。

3 page **吉野川いまむかし**
吉野川渡し

4 page **ふる～ぶ編集部がおじゃまします**
学島小学校「KSD(環境を救う団体)活動」

吉野川ミニ辞典
アドプトプログラム吉野川

5 page **ふる～ぶめいと通信**
ふる～ぶめいと募集のお知らせ

6 page **Ra♪Ra♪Ra♪ エッセイ**
九月のオーストラリアハーブ事情について
ふる～ぶインフォメーション
9月1日は防災の日
いざ！という時に役立つロープワーク

7 page **よりよい吉野川づくり(第16回)**
佐々木一英徳島河川国道事務所長にインタビュー
皆さんの思いが川をよくする

ふる～ぶひ・ろ・ば
編集後記・今月の表紙イラスト・おたより・プレゼント



東南海・南海地震に備えよう。

「平成18年度大規模津波防災総合訓練(国土交通省主催)」

7月30日 小松島港赤石地区

スマトラ島沖大地震を踏まえて、東南海・南海地震による津波を想定したこの訓練は、昨年行われた和歌山県について二度目となるもので、北側一雄国土交通大臣をはじめ、自衛隊、消防、警察、海上保安庁、気象台、自主防災組織など54団体が参加し、会場見学者も含め、約3,000人が参加しました。また、徳島県内のサテライト会場や、四国各県、三重県、和歌山県を含めると、参加者は、24,000人にのぼりました。訓練では、午前9時0分、室戸岬沖でマグニチュード8.6の地震が発生し、徳島県から高知県にかけて、高さ10メートルの津波が到達するという設定で行われました。

まず行われたのは、情報伝達訓練です。災害時に実際に設置される国土

交通省四国地方整備局の災害対策室をイメージし、四国四県の防災にかかわる担当者が一同に集まり、ヘリコプターやカメラからの映像や、駆けて込んでくる情報連絡員の情報などを収集しました。

この訓練は、災害時に関係機関の情報の共有化をはかり、迅速な次の対応へとつなげる為のもの。参加者は、緊張感あふれるなか、はきはき、きびきびと訓練に取り組んでいました。

また、パケツリレーの参加者は、「日頃からの訓練の大切さを実感した」「隣近所、みんなで助け合っていかなくて

はいけない」と話し、訓練に参加した一般参加者の皆さんにとっても、防災意識を高めた一日になったようでした。

国土交通省 徳島河川国道事務所は、地震津波対策として、樋門ゲート高速化を行っています

東南海・南海地震の発生45分後には、津波の第一波が吉野川に到達し、その高さは、3メートルといわれています。地震が起こったら、吉野川を遡上する津波が支川に入るのを防ぐため、樋門のゲートを早急に閉める必要があります。従来のシステムではその操作は、樋門操作人の方が行ってきました。

しかし、震度6が想定され、津波警報、大津波警報がでるなかでの作業は、非常に危険を伴うことから、津波の遡上が予想される吉野川下流8樋門について、平成15年度より3年をかけて、樋門の操作を自動化する改良工事が行われ、4月に完成しました。

これは、気象庁からの津波警報を衛星で自動受信し、自動的に開閉されるものです。このため、今まで30分かかっていた樋門閉鎖時間が、5分程度に短縮されました。本格的な運用は、地域住民に周知した後の来年4月か



情報伝達訓練

7月30日の大規模津波防災総合訓練にも、樋門の緊急訓練が行われた。



らとなります。

住民の皆さんには、大津波が発生し、警報発生と同時に、自動で、樋門に設置した赤色回転灯、電光表示板及びスピーカーから、サイレンや音声により、河川利用者に危険情報を知らせます。



四国地方整備局のトップページより、防災・災害をクリックしてください。
さまざまな情報を見ることが出来ます。

吉野川
いま
むかし

このコーナーでは、吉野川の
今と昔の写真を見ることによって、
ふるき時代をみつめ、
未来の吉野川を創造します。

吉野川渡し

【川崎裕子(やすこ)さんライブラリーより】
川崎さんは、岡田式渡船を徳島へ導入した川崎耕(さとし)さんのひ孫にあたる方。
岡田式渡船とは、岐阜県に住む岡田只治(ただし)氏が、明治三〇年頃に、考案した渡し船。
これまで、船頭が櫓や櫂をあやつる渡し舟とは違って、
両岸に高い支柱を立て、ワイヤーと滑車を使い、流れに乗って、
自動的に対岸へと渡っていくもの。

積載量は、一、三〇(一度に一〇〇人の乗客と、五台の荷車、荷馬車を
一程度積載することが可能であったといわれています。

ふやふやの川に船が乗るの面白い資料や写真が有るといっています。
むかしは、真のササシラは、川崎さんと父の川崎武(たけ)氏が考案したもので、川崎さんご自身も、
お父さんの真のササシラは、川崎さんと父の川崎武(たけ)氏が考案したもので、川崎さんご自身も、

昔



大正初期の大具渡し

人、荷車、荷積馬車などを満載し、大具渡しを渡っている岡田式渡し船。楢取り舟が、後に続いている。また、舟乗り場付近の河原では、馬車と人力車が次の渡しを待っている。

大具渡し跡

讃岐や土佐へ行く人々で、にぎわった渡し場所。今は、ひっそりと静寂なこの場所。耳を澄ますと、当時の人々のざわめきが聞こえてきそうな気がします。

今



昔

大正初期、大具渡し
池田寄り舟着き場で、
渡しを待つ荷積み馬車の列

竹やぶ下の、国道筋では、6台の荷積馬車が、次の渡しを待っている。当時の岡田式には、荷積馬車なら2台。空馬車なら4台を乗船させることが出来たので、大具の渡しと、白地渡しは、荷車や牛馬車が殺到した。

大正初期の白地渡し
の岡田式渡船と
後ろに続く楢取り舟

吉野川で一番最初の橋となった三好橋も、この頃より15年後の昭和2年に完成した。

白地渡し跡

白地には、古くは吉野川筋の代表的な川湊であった白地の浜がありました。交通の要所であったこの場所には、白地の番所跡がありました。今は、静かなたたずまいが残るのみとなっています。

今



昔



ふる~ぶ 編集部が おじゃまします!

学島 小学校 の巻

合格祈願の「学」のお守りで全国的に知られる吉野川市川島町学にある学島小学校。ぶどうの産地としても有名です。

「学島川ってどこにあるん?」「え、あの川というかドブ?」当時の4年生だった

児童が、校区内を流れる全長約5kmの小さな川に学島川という名前があることを知ったのは、平成17年度の総合的な学習の時間で環境をテーマに学習をしたことから。「せっかく

近くにあるのだから探検に行こう!」ということになりました。当初は「あまりにも汚くて入る気がしなかった。ゴミが多いので驚いた。でも、

小さいおたまじゃくし

を見つけたよ」など、身近に流れていたけれど、気がつかなかったことがたくさんあることを知ったそうです。「川をきれいにしなければ、自分たちのところに返ってくる。自分たちの命を守るためにも川をきれいにしよう」そんな思いから、さまざまな活動を始めました。学島川の清掃、水質調査、EMだんごやEM液の作成、学校内だけでなく、川にゴミをすてないようにチラシを作って学駅で住民への呼びかけを行ったり…。総合的



EMだんごづくり



EM液を使っての川の浄化

KSD(環境を救う団体)活動

な学習の時間としては、平成17年度で4年生の環境の学習は終了しましたが、学習以外でも、継続的に活動を続けよう、と、今年の5月にKSD(環境を救う団体)が結成されました。これは環境(K)救う(S)団体(D)の頭

文字をとったもの。環境の学習をした5年生を中心に、3年生から6年生47名が所属し、放課後や、昼休み、土日などにEM液を作って川の浄化を行ったり、川の清掃活動をしています。

学駅で住民への呼びかけ

日々の生活の中でも子どもたちの意識は変わってきています。お味噌汁や、スープなどを残さなくなり、給食で残してしまった牛乳は、校庭の花壇の花にあたえています。牛乳の栄養で花がよく育つそうです。また、図工の時間で使ったパレットにある絵の具をふきとってから洗うようになったりと、身近にできることを実践しています。「自分たちだけでなく、地域のみなさんにも学島川を知ってもらい、きれいにしていこうと呼びかけたい」子どもたちから地域のみなさんへの呼びかけが始まっています。

当面の目標は、「ホテルが棲めるような川になること」。子どもたちが、おいしいちゃんやおばあちゃんに聞いた話によると、以前は学島川にもたくさんのホテルが飛んでいたそうです。学島川を守る活動はこれからも続いていきます。



KSD団長と副団長。校内のさまざまな場所に、川や水の大切さを呼びかけるポスターが貼られています。

吉野川三昧

アドプトプログラム吉野川

「アドプトプログラム吉野川」は、吉野川を愛する流域に暮らす人たちが、自分たちの手で、吉野川を美しくしようというボランティア活動のこと。アドプトとは、養子縁組のこと。吉野川の土手や河川敷を子供に見

立てて、その一定区間と、流域の企業や住民グループが養子縁組(アドプト)することから、スタート。企業や住民グループのみなさんは、担当する区間の清掃・美化活動を定期的にに行います。このアドプトプログラムは、もともとはアメリカ生まれ。徳島県では、アドプトハイウェイ・神山として始まったの

がスタートです。平成18年3月31日現在、アドプトプログラム吉野川に参加している企業・団体は、127団体、15,887人。担当している区間は、89.8kmとなっています。





「ふる～ぶめいと」は、
吉野川が大好きな
人たちの集まりです。

「ふる～ぶめいと」の活動は、吉野川や吉野川流域に関する身近な情報を「ふる～ぶ」に提供することにより、吉野川に親しみや、関心を持っていただいて、吉野川ファンの輪を広げていただくことを目的としています。

ふる～ぶめいと募集のお知らせ

「私たちと一緒に川に親しみ、近づいてみませんか？」

「ふる～ぶめいと」とは、6年前に活動が始まった吉野川ファンの集まりで、毎回多くの皆様にご好評いただいている野草料理教室、わらざり作り教室、吉野川の竹を使ったケーナづくり教室などでは、講師、運営スタッフとして、中心となって、活動していただいています。

「ふる～ぶめいと」同士は、吉野川について考え、勉強会やミーティングなどを通じて、川に親しみながら、交流を深めてきました。
吉野川ファン同士、楽しく川に近づいていきましょう。



わらざり作り教室



野草料理教室で
記念撮影



野草料理教室での
野草つき



ぶぶるパークみかもでの
ケーナ作り教室

ふる～ぶめいと 募集要項

- ★募集人員……3名
- ★対象……徳島県内の吉野川流域にお住まいの方、または通勤、通学している方
- ★期間……基本的に1年間ですが、継続も可。
- ★活動内容……ふる～ぶ本誌ふる～ぶめいとコーナーに、情報提供。また、年に4～5回のミーティングを開催予定。その合間には、川に親しむイベントを開催します。
- ★応募方法……あなたが「ふる～ぶめいと」として、どんなイベントを開催したいか、または、ふる～ぶをよりよくするためのご意見を、200字から400字の間で、自由にまとめてお送りください。様式は、問いません。イラストや写真を付けていただいてもかまいません。FaxやE-mailでも受けつけています。
- ★応募先……〒771-1156 徳島市応神町応神産業団地13-28 ふる～ぶ編集部まで
- ★Tel・Fax……088-623-6085
- ★Eメール……fleuve@chime.ocn.ne.jp
- ★締切……平成18年9月29日(金)

選考の結果は、10月中旬までに、応募者全員に連絡させていただきます。
応募者全員の方に西山欣子さんによるふる～ぶ表紙イラストポストカードを差し上げます。



ハーブ農園 からの風

このコーナーでは、「ふる～ぶめいと」の黒川慶子さんにハーブの楽しみ方を中心に、食と健康、水の大切さなどについて語っていただきます。楽しいレシピなども登場しますよ。

九月のオーストラリア ハーブ事情について

平成十六年度徳島県女性リーダー養成海外派遣事業オーストラリア訪問団員として、九月十一日～十八日の日程でメルボルンとシドニーを訪問しました。ブリスベンにて乗り継ぎ、メルボルンに到着した日の現地気温は九度。本日の予想最高気温は十四度との事で、山間部ではまだスキーができるそうです。当日は日曜日、市内研修として、コモハウス、リアルトウワ、キャブテックの生家、フェデレーション広場を見学しました。まず、移動中のバスの中から桃枝、野ポタ、ツバキ、つじ、ラベンダー、デイゴ、ばけ、さんか、君子蘭、ローズマリー、オーストラリアン日本では、ウェストリギンアという名で市販されています。等々が次々と見えたときには、何、これ！日本の四季の花が一度に咲いた様で、とても驚きました。また、偉大な探検家キャブテックの生家の裏庭をみて、あ！一七〇〇年代の英国北部で広く栽培されていた薬草や野菜、果樹類が植えられているのですが、今、私がやっている事と変わりがなく、改めて



ハーブの歴史を感じました。その後、研修の合間を縫って訪れた南半球一と言われ、一八七八年から続いているクイーンビクトリアマーケットでは、無造作に束ねられたハーブ類を見あ、何も特別なものではないのだと実感しました。そういえば、食事の時も、バスタにはバジルがたっぷり、飲茶にはコリアンダーが、フィッシュステューキにはディルやパセリ、ホテルの部屋には、レモングラスとフエンネルのティーバッグがコヒーと共に置かれていました。ホームビジットで訪れたシドニーのニッキー・カーライルさんのお宅では、イタリアンパセリの鉢がカラカラの状態。訪問時は水源地の貯水率が四十パーセントで、水やりもままならないとの事。そういえば、洗車もバケツで、ホースを使っているのではないのでしょうか。頭の中が吉野川への想いでいっぱいになりました。空港で、スパイスいまいましいオイルを求め、帰路につきました。

【黒川慶子さん経歴】

ハーブコーディネーター
板野町でハーブ農園を営む。
食と健康について、講演も務める。
徳島県薬草協会会員
上板町薬草協会会員

ふる～ぶ INFORMATION

9月1日は防災の日

いざ！という時に役立つロープワーク

いざという時に、自分の身を守るために必要となるロープワーク（紐の結び方）。本結びや、もやい結びといったロープワークがわかりやすく説明されているパンダナが完成しました。

これは、防災エキスパート山本邦一さんの協力で、制作されたもの。今年5月に大洲市で開催された弘川水防演習時に、体験コーナーでの指導のため大洲河川国道事務所、制作されました。徳島河川国道事務所では、7月15日に徳島市で開催された防災フォーラムにあわせ制作されました。

解説文やレイアウトも考えた山本さん。今回は徳島の特徴を活かし、藍色をイメージし、より分かりやすくロープワークの手順や防災の基本となる土のうの作り方が紹介されています。「ロープワークは災害時だけでなく、日々の暮らしにも役立ちます。とささの時に役立つよう、日々の練習が必要でしる備えあれば憂えなしの気持ちが大切です。目に見えるところにおいてほしいです」と話してくださいました。

このパンダナは、今後徳島河川国道事務所主催の水防工法技術講習会に参加される方々にも配布される予定です。

プレゼント

ロープワークについて書かれたパンダナ（縦横ともに51cm）を、簡単なアンケートに答えてくださった方の中から抽選で50名の方にプレゼントします。アンケートの答え、住所、氏名、電話番号を記入の上ご応募ください。応募またはFAXでご応募ください。



アンケート ①徳島河川国道事務所今後してほしいイベント
②ふる～ぶの誌面の感想

締め切り 10月31日(火)

応募先 〒777-1156 徳島市応神町応神産業団地13-28
(株)四電技術コンサルティング
ふる～ぶ編集部 パンダナプレゼント係
TEL&FAX: 088-623-6085

パンダナ提供: 徳島河川国道事務所 地域連携課



佐々木英 徳島河川国道事務所長にインタビュー

皆さんの思いが川をよくする

今回は、7月に着任された佐々木英所長にお話を伺いました。



Q1 所長は、札幌市のご出身と伺っていますが、子供の頃の川の思い出をお聞かせ下さい。

私は、札幌市豊平区のご出身です。家の周りには、それほど大きな川はなく、月寒(つきさむ)公園という市民の憩いの場所となっている公園に流れ込んでいる望月寒(もちつきさむ)川というのがありました。河川というより、小川といったような小さな川でしたが、タニシ、ドジョウなどがいっぱいいましたね。氾濫したこともあります。

Q2 初めて、吉野川を見た印象を教えてください。

四国に赴任したのは、はじめてなのですが、その雄大さに驚きました。また、透明感と青さ、そして滔滔と水をたたえた美しい姿が印象的です。赴任してから、何度も近くを歩いてみたのですが、水際に近づくと、風を感じられて気持ちがよいですね。

Q3 着任されてから、すぐに河川整備計画の素案に対し、住民や市町村長の方々からご意見をお聴きしていますか？どのようなことにお感じになりましたか？

多くの住民の皆さんのご意見を伺いし、吉野川に対する関心の高さ、熱い思いを肌で感じています。治水面をはじめ、利水や環境面でも、多くのご意見をいただいています。



第1回 吉野川流域住民の意見を聴く会で
お話をした佐々木所長

Q4 所長のお考えになる川づくりというのは、どのようなものでしょうか

川というのは、普段何気なく皆さんのそばに存在しています。しかし、自然が猛威をふるうと、平成16年、17年のように大災害を引き起こしたりします。ですから、住民の皆さんの生活基盤である川づくりをしっかりと行っていかれたいと思います。

その一方で、美しい自然環境を守りつつ、レクリエーションの場としての空間づくりも行っています。これは、私たち河川管理者だけで、できることではありません。流域の市町村、そして、住民の皆さんと協力していくことが必要です。

Q5 吉野川河川整備計画策定に向けて、読者の皆さんにメッセージをお願いします。

現在、吉野川河川整備計画の素案について、流域住民の皆様にご意見を聴く会も、1巡目が終了しました。『皆さんのご意見を十分に検討させていただき、素案を修正し、より適切なものにしていく作業』この過程を繰り返し、素案を作り上げていきます。このような積み重ねがよりよい吉野川づくりの第一歩だと思います。

また、川というものは、地域の方々が思いを寄せることによっても、よくなっているものだと思いますので、より多くの皆さんのご意見をいただきたいと思います。なお、ご都合で会場にお越しいただけない皆さんもいらっしゃることと思いますが、当事務所のホームページなどを通じてご意見をいただけたらと思います。吉野川の川づくりに、できるだけ多くの方にご意見をお寄せいただきたいと思います。



よりよい吉野川づくり 吉野川水系河川整備計画については

<http://www.yoshinoriver.info>

ふる〜ぶ編集後記

「みんな、助けあっていこうっていよいよ」大規模標準防災訓練で、出会った年配の男性が、やさしくうなづいていました。「やさしさ、人とのつながり災害時に大切なものは、なんなのか、感じさせてくれた一言です。防災の日、みなさんは、どんなことを感じましたか？」

(かや)

今月の表紙イラスト

「青雲橋」三好市山崎町大田村

青雲橋は、4年に一度の「コンクリート（国産コンクリート）会賞」において最も優秀な賞に選ばれました。

2000以上のエントリの中から世界中の中から選ばれたコンクリート構造物に選ばれたのです。日本の橋が最も優秀に選ばれたのは初めて。平成18年6月には「タリム」のナボに表彰式が実施されました。仮設工を設置せず、吊橋橋を利用し、自衛隊一式PC混合トラス橋です。

おたより [阿波市香美・竹内親子さんより]

私は、吉野川の南岸で生まれ育ち、結婚後は北岸で今も住みつづけて60年が過ぎました。川辺の風景は、ずいぶん変わりました。特に早稲、その光景は、心にしみ込むものがあります。やなぎの新芽の萌発色も川辺全体を包み込み、それらを春風がそよ風のように吹くように、一瞬の光景のようです。

亡き主人も、吉野川を、こよなく愛し、遊んでもう一人です。釣りが好きでした。海へは行かず、一年を通して、ササガ、鯉、冬石打魚など楽しんでいました。鮎が一帯に美味しいうち、漁も楽しんでいた。幸い、私は、甘藷畑に、友人に配っていました。今は、なつかしい思い出です。

※読者の皆さんで一部を無断でさせていただきます。

成の千支スレセント

佐藤美さんが吉野川の竹を使って作った成の千支竹工をプレゼントします。ご希望の方はお電話またはファックスでお送りください。締め切りは9月29日(金)です。

7771-1156
徳島市北神町応神産業団地13-28
ふる〜ぶ編集後記編集後記

ふる〜ぶは、吉野川流域の市町村役場、図書館、博物館、公民館等の公共施設および道の駅にて、持ち帰りお読みいただくことができます。皆様へ愛読ください。